

## 序

北海道農業は戦後50年の節目を迎えて、我が国最大の食料供給基地として位置づけを一段と強めている。しかしながら生産現場は後継者不足や農業者の高齢化、農畜産物の価格低迷など難しい課題に直面しており、さらにガット・ウルグアイ・ラウンド農業合意による自由化の進展、新食糧法の実施に伴う国内産地間競争の激化など益々厳しい情勢下に置かれている。また農業に対する世界的ニーズとして、生産効率追及一辺倒から脱却して、資源を大切に、環境を守りながら安定生産を持続させる環境調和型農業への転換が強く求められており、北海道農業にとってもそれは例外ではない。

このような農業情勢下にあつて、難局打破をめざして、良質、良食味、耐病、耐虫、多収、安定等の特性を具備した新たな品種開発や省力、低コスト、品質、安全性向上等の栽培技術確立に対する期待は限りなく大きい。

北海道立農業試験場ではこれらの期待に応えるべく技術開発に努めているが、特に品種開発については、水稻では耐冷、耐病、多収性の向上と「コシヒカリ」並高度良食味への到達を目標とし、小麦では耐穂発芽、耐病、耐冬、多収性の向上と製めん、製パン性の改善をめざしている。また豆類では耐冷、耐病虫、良質、多収、機械化適性等総合形質の兼備、ばれいしょでは多収、耐病虫性の向上、およびでん粉原料、食用、加工適性に加えて、新たにそうか病抵抗性を重点目標としている。さらにまたとうもろこし、チモシー等の飼料作物、タマネギ、イチゴ、りんご等野菜、果樹についても北海道の地域性を重要視した育種目標をめざして新品種開発に努力している。

本書「農作物優良品種の解説」(1987-1995)は昭和62年以降平成7年までの9年間に、水稻、畑作物、園芸作物、飼料作物等で新たに優良品種として普及に移された145品種について、それらの来歴、特性、栽培適地等を解説したものである。本書の利活用が、北海道農業の一層の生産性向上と経営の安定に寄与することを期待するものである。

平成8年3月

北海道立中央農業試験場長 三分一 敬

# はじめに

1. 登載した品種は、1987（昭和62）年から1995（平成7）年の9年間に、北海道農業試験会議（成績会議）の検討を経て、北海道種苗審議会で優良品種に決定された全品種をとりあげた。

その作物別の品種数はつぎのとおりである。

普通作物	52品種
特用作物	19品種
果樹	12品種
野菜	8品種
飼料作物	54品種
合計	145品種

2. 付表の北海道登録品種一覧には、1985（昭和60）年に定められた北海道作物優良品種認定要領によって、登録簿に登録済みの全品種をとりあげた。

3. 記載内容は、北海道農業試験会議で検討された資料に基づいているが、その後に変更または追加されたことが明らかにされているものは、それに従って書き改めた。

4. 記事は、植物遺伝資源センター関谷長昭場長監修のもとに、同場三浦豊雄研究部長が執筆し、各農業・畜産試験場の育種担当者の校閲を得て編集した。